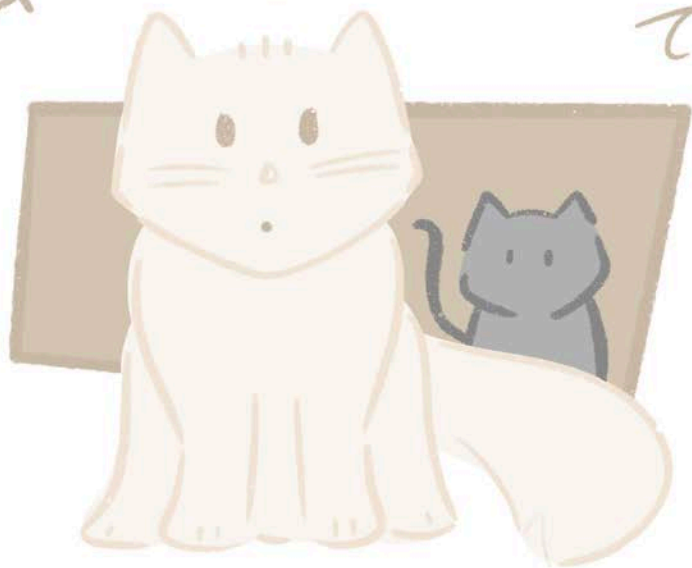


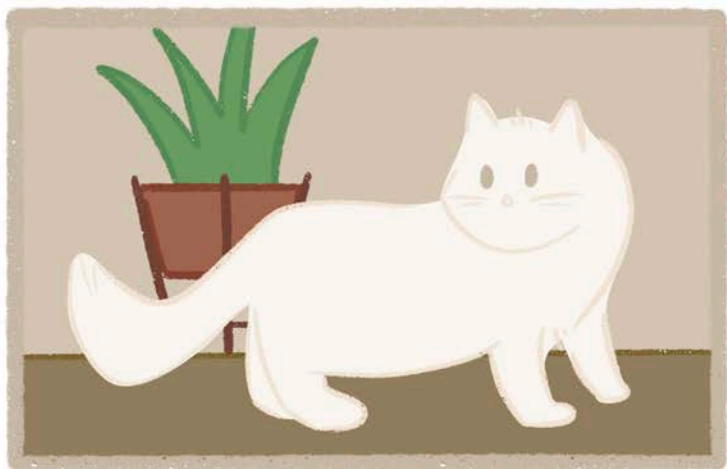


Tadoku
level 0

リ
リ
ー
・
キ
ム

こねこ
子猫はどっかがで
見^みましたか



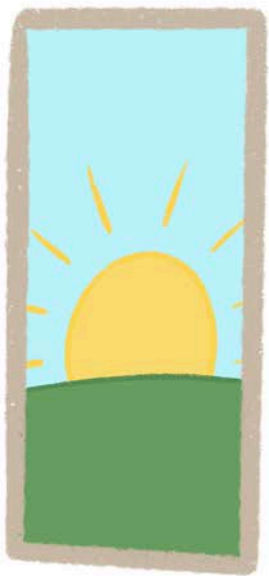


はな はな
ねこ ねこ
花は猫です。

かあ かあ
そして、お母さんです。
こねこ こねこ
ごひき ごひき
子猫が五匹います。



「いち一、に二、さん三、し四、
ごひき五匹の子猫こねこがいます。」



まいにちはな
お
毎日花が起きて
こねこ子猫をかぞえ数えます。

ある日は一匹の子猫が
そこにいません。



「一、二、三、
四匹の子猫がいますか。」
えっ。

いちばんした

こねこ

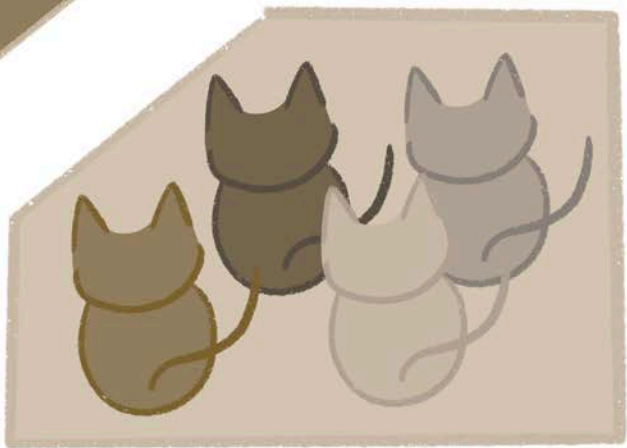
一番下の子猫がどこにもいません。



だから、花はなは家いえから

出でかけます。

「行いってきます。んんん
で
待まっててください。」



「ニャー」

庭にわで聞ききます。

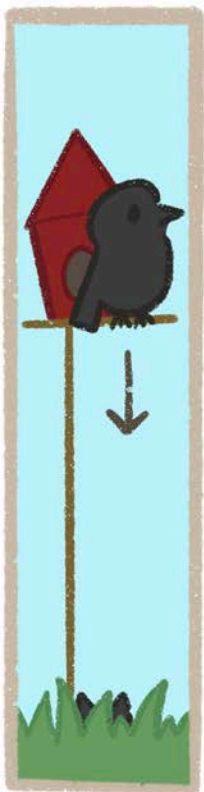
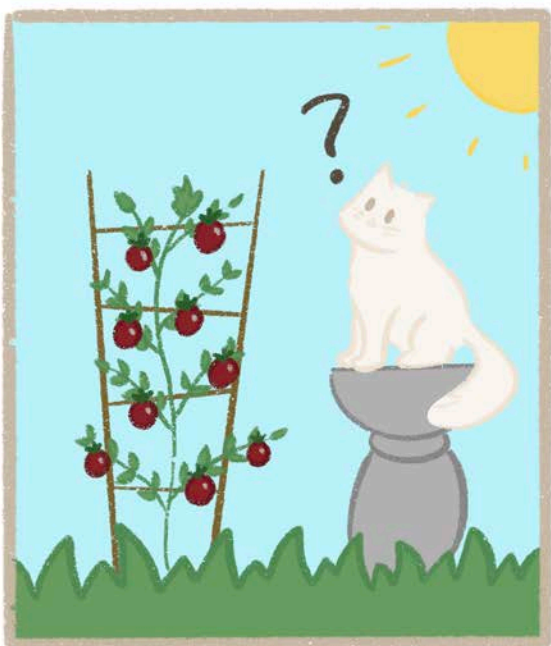
「子猫こねこはどこかで

見みましたか。」

カラスが言いいます。

「はい、ここに

います。」

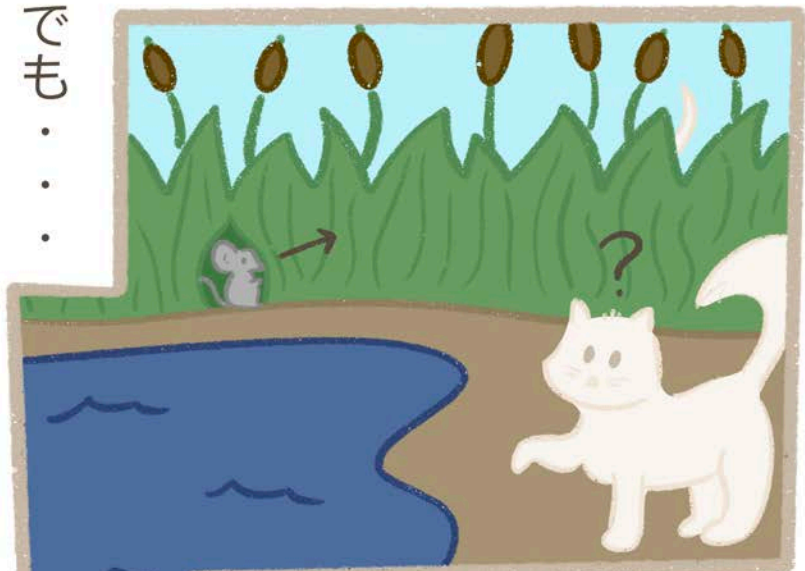


でも・・・



「このは黒い^{くろ}です。
私のは白^{しろ}いですよ。」

でも・・・



池いけの近くちかで聞ききます。

「子猫こねこはどこかで

見みましたか。」

ネズミが言いいます。

「はい、そこに

います。」



「これは白しろいですが、子こいぬ犬ですよ。」



公園こうえんで聞ききます。

「子猫こねこはどこかで

見みましたか。」

キツネが言いいます。

「はい、あそこに

います。」



そして・・・

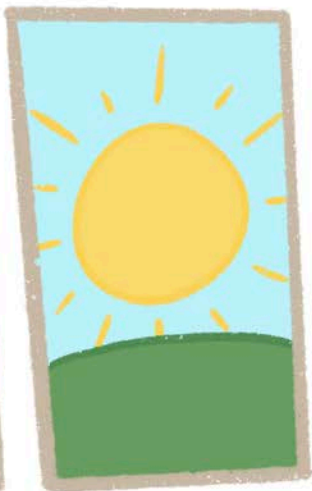
「「ヤー！」」



「これは、私の子猫です。」

わたし こねこ

あくる日^ひです。



「一^{いち}、二^に、三^{さん}、四^し、五^ご・・・えつ。」



ろっぴき こねこ
「六匹の子猫がいますか。」

